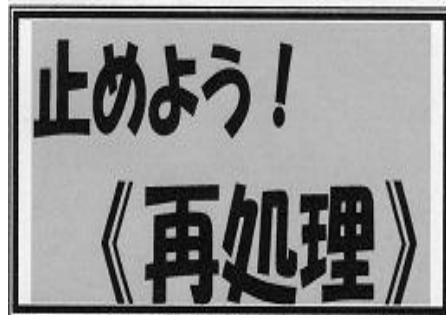


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ [再処理/岩手の環境/RI](#)
[廃棄物 \(coocan.jp\)](#)
本紙は市民カンパで発行しています。
購読したい方は事務局に連絡下さい



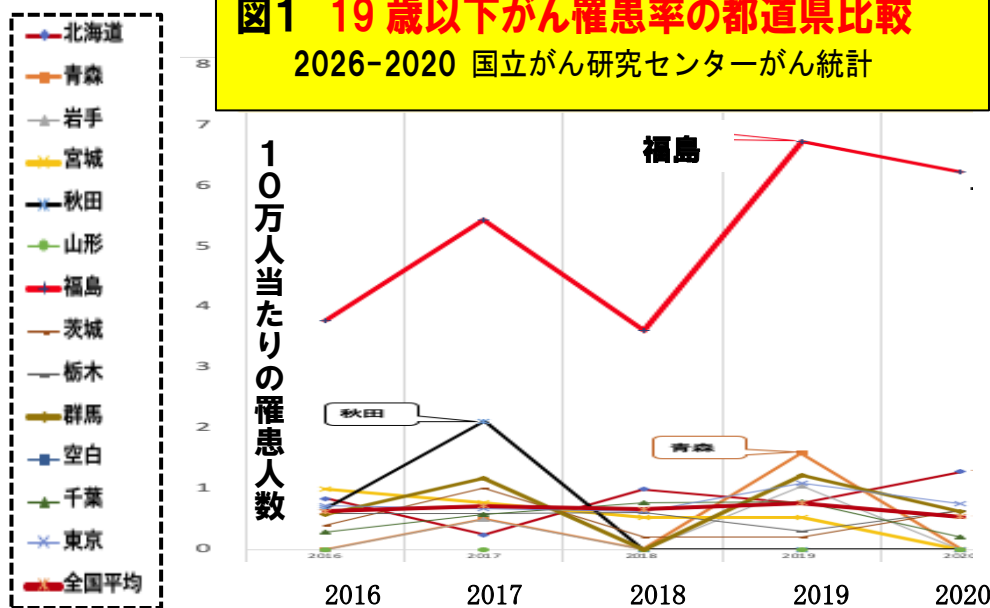
《天恵の海》
025(令和 7年) 6月9日
第263号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

19歳以下の甲状腺罹患者 福島県で圧倒的に多発!

国立がん研究センターの全国データで比較

福島原発事故被曝に起因 明瞭

図1 19歳以下がん罹患率の都道県比較
2016-2020 国立がん研究センターがん統計



国立がんセンターは二〇一六年から全国のがん統計を一元化し公表を開始しました。このことは、検査判定方法など全国的に平準化された標準データと考えられます。本会で東北、北海道、関東の一二の各道県について、二〇一六年から二〇二〇年までの一九歳以下の甲状腺がん罹患率データを調べたところ、福島県が他県より圧倒的に罹患率が高いことがわかりました。(図1, 表1)

	2016	2017	2018	2019	2020
福島	3.77	5.43	3.61	6.73	6.22
青森	0.00	0.50	0.00	1.59	0.00
群馬	0.58	1.17	0.00	1.22	0.63
東京	0.72	0.67	0.62	1.09	0.76
岩手	0.00	0.50	0.00	1.04	0.00
千葉	0.28	0.57	0.77	0.78	0.20
北海道	0.84	0.24	0.99	0.76	1.28
宮城	1.00	0.77	0.52	0.53	0.00
栃木	0.58	0.59	0.60	0.31	0.63
茨城	0.40	1.00	0.20	0.21	0.64
秋田	0.68	2.11	0.00	0.00	0.00
山形	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
全国平均	0.63	0.72	0.66	0.77	0.54

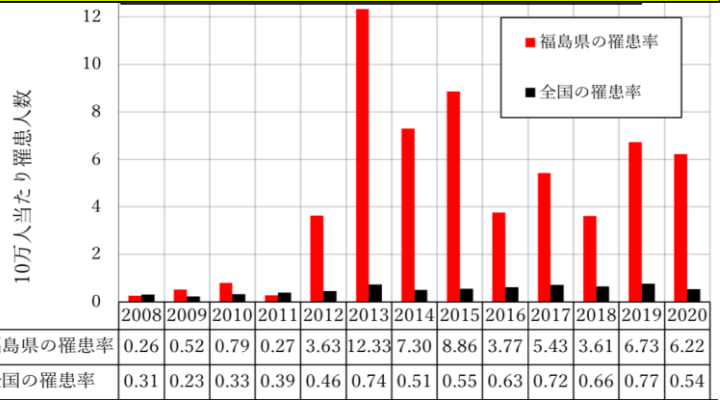
右表説明 福島県の甲状腺がん罹患率の一番高かった二〇一九年について、各県を罹患率の降順に並べた。

表1 19歳以下がん罹患率の
各都道県比較(上図のデータ)

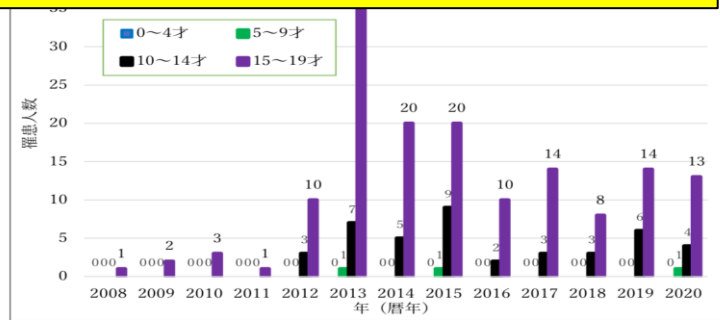
福島県の罹患率は
全国平均の五・五
〜一・五倍

レポートの概要
べ福島の一九歳以下の子供の甲状腺がん罹患率がずば抜けて高いことが一目でわかります。二〇一六年から国立がん研究センターが全国のデータを一元化し公表を開始したため、検査判定などより平準化された標準データと考

**図2 甲状腺がん全国・福島県罹患率
(10万人あたり) 19歳以下(男女計)比較**



**図3 福島県小児甲状腺がん罹患人数年変化図
罹患数データは福島県 HP「福島県がん登録」より**



えられるため、二〇一六年以降については二〇二〇年までの集計を用いて比較しました。この年以降の増減はどのようになっているのだろうか、原発事故後に生まれた子供たちが、全て二〇歳になる二〇三一年以降の増減も気になるところです。

二〇二二年から

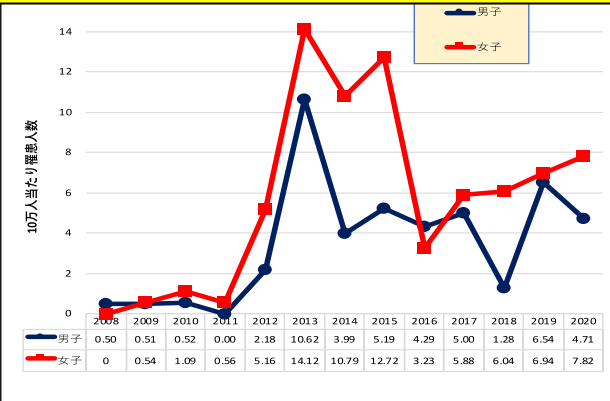
甲状腺がん急上昇

図2から、原発事故の起こる前の二〇一〇年以前の三年間、福島県は全国の0.83(2.4倍(平均1.83倍)の罹患率であったが、2012年以降九年間は5.5倍(16.7倍)と大幅に上昇していることがわかります。(二〇一六年以前のデータは福島県とがんセンターの資料から算出) 事故前と事故後の罹患率は5.7倍です。二

図3 から二〇〇八年から二〇一〇年にかけ、0～4歳の幼児には罹患者がいなかった。5～9歳では原発事故前はゼロだったが、二年後の二〇一三年に一名、二〇一五年、二〇二〇年に各一名の罹患患者が出た。10歳～14歳は事故翌年の二〇一二年で3名、そして二〇二〇年までは毎年2～9名の罹患患者数であり、二〇一五年9名が最多数であった。

福島事故後、子ども甲状腺がんの発生が観られた。図4を見ると二〇一一年までの小児甲状腺がん

図4 福島県甲状腺がん男女別 20歳未満罹患率推移 福島 HP 福島県がん登録



**10万人当たり罹患人数 年次推移
福島県がん統計より**

15歳～19歳は原発事故前は1～3名、事故後の2012年からは毎年8名～35名の罹患患者数で推移し2020年にも13名の罹患患者数であった。2011年原発事故時に誕生した(胎児)子供たちは二〇二〇年当時9歳になっており、二〇二一年には9歳以下は全て原発事故後の誕生になることに注意したい。

甲状腺がん患者とその家族への賠償と医療補償を現在二〇二五年であるが、統計は二〇二〇年までの公開である。統計情報の公開が遅すぎるのではないか。

福島県民健康調査委員会での子供の検査結果の評価が行われていますが、「甲状腺がん」と被曝の関係は認められない」との報告が行われてきました。一方原子力規制委員会は、日本各地の原発立地周辺自治体に事故時の被曝から甲状腺を守るためにヨウ素剤を住民へ配布しています。甲状腺患者とその家族は、やり場のない悲しみと窮地に追い込まれています。国と電力会社は、原因と考えられる放射性ヨウ素を大量に環境へ放出した責任とその因果関係を認め、甲状腺がん患者とその家族への賠償と医療補償を誠心誠意尽くすべきです。